

《これまでの調査とこれからの予定》

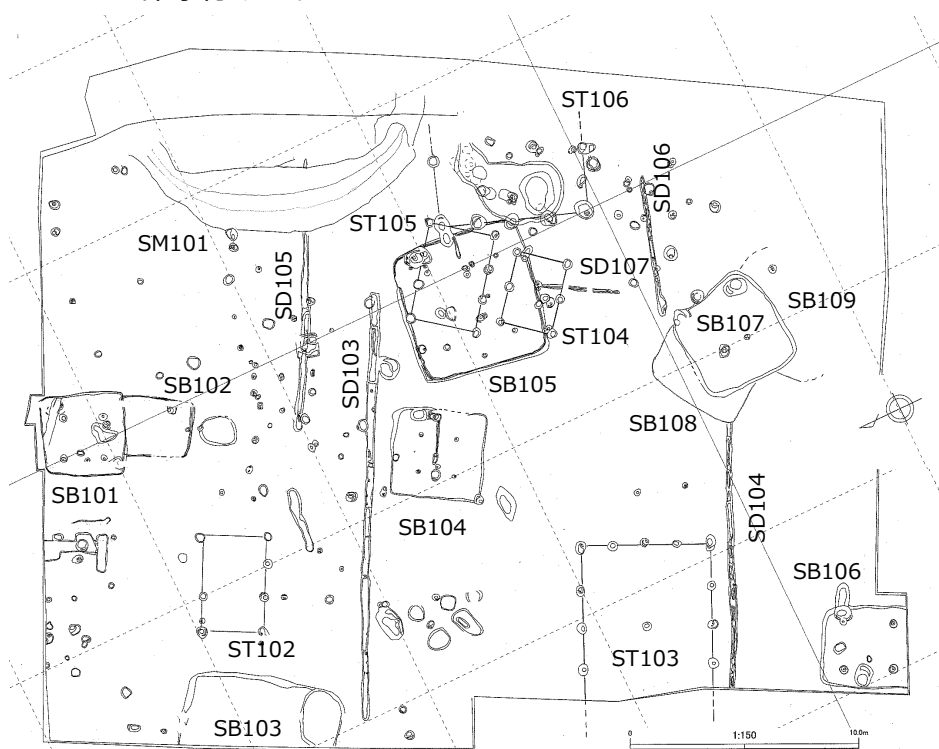
発掘調査開始から3ヶ月が過ぎ、6地区に区分した調査区のうち、3地区の調査が終了しました。一番東側のA区はすでにお伝えした通りですが、西側のE・F区はともに、流路跡(小川の痕跡)や流路に浸食された地形が確認され、E区で掘立柱建物跡が1棟確認されたのみで、調査を終えています。また、最も広いB区の調査も終盤を迎え、残す2地区のうち、D区は遺構検出が済み、溝跡が1条、柱穴が数基見ついています。C区については、10月から重機で土をB区へ移動した後、調査に入る予定です。引き続き、皆さまのご理解とご協力をお願い申し上げます。



《古墳時代前期(約1600年前)の集落跡が明らかに》

下図に示した遺構のうち、SB107(平安末期)・SM101(古墳中期～後期)を除いた遺構はすべて古墳時代前期と考えています。

古墳時代前期の遺構のうち、SD103～105とした細い溝跡が同じ方向で構築されています。これらの底面には小穴等が開けられ、「^い塀」などの可能性が考えられます。さらに、SB101・102・104・106とした竪穴建物跡やST102・103とした掘立柱建物跡は、上記の溝跡と方向が揃っています(SD106・SB105・ST106も同様の関係)。集落の中で建物を建てる際に、何らかの規制や計画性があったことが考えられ、一般の集落とは異なっていることを印象付けます。



古墳時代前期の集落跡(他時代含む)



確認状況



土器を残して半割



土器内部を観察

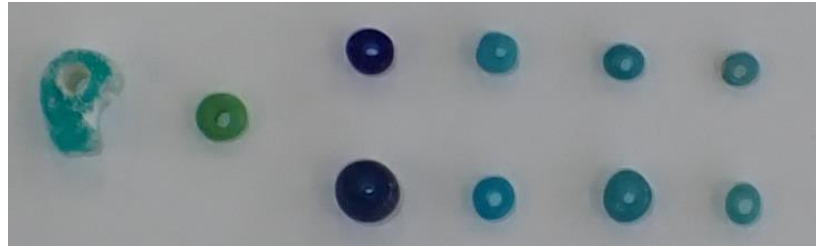
SB104土器埋設炉の調査手順

しゅうこう

まがたま

《古墳の周溝からガラス製の勾玉と小玉が出土！》

ガラス製の勾玉・小玉は、石製のくだたま管玉とともに周溝の底面付近の一定の範囲内から出土しました。これらは、首飾りを構成していた装飾品で、何らかの祭祀に伴い、周溝に埋納されたと考えられます。



《今月のイチ推し!! わきょう和鏡が竪穴建物跡から出土しました!!》

平安時代末期（11世紀後半）の竪穴建物跡(SB107)の埋土中から、青銅製の和鏡が出土しました。古代の和鏡が発掘調査で出土したのは飯田市内では初めてとなります。

SB107は北東隅にカマドをもつ竪穴建物跡で、たくさんのかいゆうとうき灰釉陶器や鉄製ぼうすいしや紡錘車等が出土しています。竪穴の埋土は、炭化物が層をなすように充満しており、壁の一部は火を受けて赤化していました。竪穴が埋まる段階で、上屋等をいったん外し、別のどこかで燃やした後に、その燃え殻がらを穴に投入したかのようです。和鏡は、この炭化物層の上面に、鏡面を上にした状態で出土しました。何らかの祭祀行為かもしれません。

和鏡は、直径約8.4cmで、X線撮影を行ったところ、文様は不鮮明なものの、中央の丸い突起（紐）に通す穴が確認されました。また、周縁を等間隔に6か所で、内側に折り曲げたような細工がみえます。六弁の輪花形（六花形）を指向していたのかもしれません。

今後、精密な観察、計測を実施するとともに、保存処理を進めていく予定です。



X線写真



和鏡出土状況



四弁の輪花形の灰釉陶器の椀



鉄製紡錘車



長野県埋蔵文化財センター 飯田支所
〒395-0151 飯田市北方297-5

電話：0265-49-0736

担当：上田典男

支援業務 (株)シン技術コンサル

中西孝和/菊池康一郎/浅間 陽

携帯：080-9560-1354

メール：maibun@naganobunka.or.jp

H P：<https://naganomaibun.or.jp>